

保護者 様

四街道市立中央小学校

校長 長谷川 由美子

令和6年度 学校評価アンケート結果（保護者用）

学校評価アンケートにご協力をいただきありがとうございました。以下、その結果と次年度以降の改善事項等をお知らせいたします。今後とも本校の教育活動へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

1 集計結果

A = そう思う B = ほぼ思う C = あまり思わない D = 思わない

項目	質 問 内 容	A	B	C	D	肯定的評価 A + B	R5年度
1	学校の教育目標やめざす児童像に共感でき、それに向けて学校は努力している。	38 %	53 %	7 %	2 %	91 %	89 %
2	学校は、教育活動などの情報を適切に伝えている。	38 %	53 %	8 %	1 %	91 %	88 %
3	学校は子どもの様子などについて、保護者への連絡や意志疎通をきめ細かく行う努力をしている。	34 %	46 %	16 %	4 %	80 %	79 %
4	学校は、子ども一人一人を大切に、特別に支援の必要な子どもへも対応した教育をしている。	33 %	50 %	15 %	2 %	83 %	85 %
5	学校は子どもにとって安全・安心な環境づくりに努力をしている。	44 %	48 %	7 %	1 %	91 %	94 %
6	学校は子どもたちの基礎学力を身につけさせる努力をしている。	38 %	48 %	12 %	2 %	85 %	88 %
7	子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている。	29 %	47 %	18 %	6 %	76 %	81 %
8	学校は、外国語教育に積極的に取り組んでいる。	22 %	51 %	24 %	3 %	73 %	68 %
9	学校は、あいさつのできる子どもを育てている。	36 %	49 %	14 %	1 %	85 %	86 %
10	学校は、歌声の響く学校づくりに努力をしている。	48 %	41 %	9 %	2 %	90 %	87 %
11	学校は子どもの善悪の判断力や規範意識を育てる努力をしている。	30 %	55 %	13 %	2 %	85 %	88 %
12	学校は、相手の立場や気持ちを考えられるなど、子どもの思いやりの心を育て、いじめのない仲間づくりに努めている。	28 %	57 %	12 %	3 %	85 %	83 %
13	学校は、黙動（清掃）ができる子ども育てている。	29 %	58 %	12 %	1 %	87 %	83 %
14	学校は、子どもの体力向上に努力している。	27 %	54 %	18 %	1 %	81 %	82 %
15	学校は、子どもの健康保持（病気予防・食育）について、身につける努力をしている。	33 %	57 %	9 %	1 %	90 %	88 %
16	学校は、地域について学び、地域の人の協力を得ている。	41 %	53 %	5 %	1 %	94 %	92 %
17	子どもにとって学校は楽しく、生き生きとした自分の居場所になっていると思う。	32 %	53 %	13 %	2 %	85 %	87 %
平均						85 %	85 %

<家庭での様子について>

項目	質 問 内 容	A	B	C	D	肯定的評価 A + B	R5年度
1	家庭では、子どもの連絡帳や宿題・家庭学習について指導等関わっている。	38 %	44 %	17 %	1 %	82 %	84 %
2	家庭では、子どもの基本的な生活習慣づくりに努めている。	48 %	49 %	3 %	0 %	97 %	96 %
3	家庭では、善悪の判断や規範意識について子どもと話し合っている。	61 %	38 %	1 %	0 %	99 %	95 %

2 考察

学校に関する内容について、昨年度と比較すると17項目中9項目において肯定的な評価の数値が上がっている。学校としては、教育活動の基本となる「学校教育目標やめざす児童像に共感でき、それに向けて学校は努力している」の項目の数値が向上していることは大きな成果である。また、「教育活動などの情報を適切に伝えている」においても向上が見られ、これはマチコミや学校だよりを通じて、教育活動の具体的内容の発信に努めていたことも要因と考える。いかに情報を受け取る側に学校の教育内容に興味をもっていただくかを意識して発信してきた。現在91%の肯定的評価であり、100%に近づけるためには情報発信の回数を増やしたり、伝え方の工夫をしたりする必要がある。

今年度は、生活面において、特に「あいさつ」「歌声」「清掃」の指導に全教職員の共通理解のもと力を入れてきた。まだ改善の余地はあるものの、全体的に児童の意識の高まり、行動に現れてきた。「歌声」や「清掃」については、児童・保護者・教職員の評価とも昨年度を上回ることができている。「あいさつ」については、保護者には、85%の評価をいただいているが、児童73%、教職員75%であり、他項目に比べて肯定的評価が低い。児童が数年後に社会に出て自然とあいさつをすることができるように、小学校段階であいさつすることのよさに気づき、自発的にできるようになるための指導をしていくことが必要だと感じる。

なお、教職員より保護者の評価の方が低い項目（10ポイント以上の乖離）は、次のとおりである。「保護者への連絡・意思疎通」20ポイント、「外国語活動」20ポイント、「善悪の判断・規範意識」「いじめのない仲間づくり」15ポイント、「特別支援」13ポイント、「体力向上」12ポイント、「基礎学力」「学校は楽しく生き生きとした自分の居場所」11ポイント、という結果であった。やはり、これだけ評価に差があるということは、情報が伝わりきれていないということが考えられる。学校から保護者、または、学校から児童経由で保護者に情報が伝わるようにすることは大きな課題である。「外国語活動」については、一昨年度から昨年度に10ポイント下がったが、本年度は5ポイント上がった。12月に実施した全学級外国語の授業参観を展開し、保護者のみなさまに見ていただいたことも要因と考えられる。

教職員の評価より、保護者の評価が高いのは、「あいさつ」と「地域の学習・地域の協力」の項目であった。地域についての評価が高い理由として、各学年の実態や学習内容に応じて地域の学習を積極的に取り入れていることが要因と考える。また、地域や関係団体に講師等を依頼したり、保護者のみなさまに活動の手伝いをいただいたりしていることも肯定的評価につながっていると予想する。実際に、様々な方と関わりのある体験活動は児童の記憶に残ることが多いため、学習内容の定着につながっている。今後とも学校・家庭・地域が連携して、教育活動を展開していきたいと考える。日頃から学校教育に御理解と御協力をいただいている方々に感謝したい。

令和6年度 学校評価アンケート結果（児童用）

1. 集計結果

A = そう思う B = ほぼ思う C = あまり思わない D = 思わない

項目	質 問 内 容	A	B	C	D	肯定的評価 A + B	R 5 年度
1	学校に来るのが楽しみだ。	45 %	37 %	12 %	6 %	82 %	82 %
2	元気にあいさつをすることができる。	35 %	39 %	21 %	5 %	73 %	77 %
3	友だちをいじめたり、いじめられたりすることなく、なかよくすることができる。	60 %	31 %	7 %	2 %	91 %	90 %
4	きまりを守って行動することができる。	40 %	48 %	10 %	2 %	88 %	89 %
5	自分から進んで学習し、授業はよくわかる。	38 %	44 %	13 %	5 %	81 %	81 %
6	「ぐう ペた ぴん」で、正しい姿勢で学習している。	24 %	41 %	25 %	10 %	64 %	61 %
7	下じきを使い、えんぴつを正しく持って文字を書くことができる。	51 %	32 %	11 %	6 %	83 %	84 %
8	定規を使い、見やすいノートをつくることができる。	50 %	33 %	11 %	6 %	83 %	84 %
9	声をしっかりと出して、歌を歌うことができる。	55 %	30 %	11 %	4 %	85 %	83 %
10	学校や家で、進んで運動をしている。	45 %	31 %	16 %	8 %	76 %	75 %
11	くつ箱に、くつのかかとをそろえて置くことができる。	54 %	34 %	8 %	4 %	88 %	87 %
12	だまってそうじをすることができる。	38 %	47 %	11 %	4 %	85 %	82 %
13	交通安全に気をつけて登下校し、横断歩道では手をあげて、わたることができる。	63 %	31 %	4 %	2 %	94 %	87 %

2. 考察

昨年度と比べ、13項目中9項目において肯定的評価の数値が同等もしくは上がっている。特に「交通安全に気をつけて登下校し、横断歩道では手をあげて、わたることができる」の項目では7ポイントの向上が見られ、94%の肯定的評価のことから児童の交通安全に対する意識が確実に高まっていることがわかる。学校において安全面に関することは常に指導するように努めているが、家庭において継続的な保護者の声かけやPTA校外指導部を中心とした活動も大きな要因と考える。何より、毎日、通学路の危険箇所にとって児童の安全を見守り続けてくださっている地域のスクールガードボランティアの方々のおかげである。

生活面の指導で力を入れている「歌声」や「清掃」の項目で評価が高くなっているのは、大きな成果である。実際に意欲的に歌っている児童や、しゃべらずに黙々と担当場所の掃除をする児童がかなり増えている印象を受ける。「あいさつ」にも力を入れているが、肯定的評価は73%と4ポイントの減少であった。自信をもって「あいさつができる」と思える児童を増やしていくために、指導方法の改善を図っていく必要がある。

また、「友だちをいじめたり、いじめられたりすることなく、なかよくすることができる。」の項目では、91%の評価で1ポイント上がっている。この項目は、本来ならば100%でなければならないと考えるため、学校生活アンケートや教育相談等を活用し、児童一人一人の心に寄り添って対応していく。

「学校に来るのが楽しみ」の項目は82%、「自分から進んで勉強し、授業がよくわかる」の項目は81%の評価であり、昨年度と同じ割合であった。2つの項目は近い数値になることが多く見られる。授業の内容をよく理解することができれば、学校に来ることを楽しみに感じる児童は増えると考えられる。わかる授業を展開することは教職員にとって引き続き大きな課題であるため、今後とも日々研修に励んでいきたい。

令和6年度 学校評価アンケート結果（教職員用）

1. 集計結果

A = そう思う B = ほぼ思う C = あまり思わない D = 思わない

項目	質 問 内 容	A	B	C	D	肯定的評価 A + B	R5年度
1	学校の教育目標やめざす児童像に共感でき、それに向けて学校は努力している。	43 %	57 %	0 %	0 %	100 %	96.0
2	学校は、教育活動などの情報を適切に伝えている。	46 %	54 %	0 %	0 %	100 %	96.0
3	学校は子どもの様子などについて、保護者への連絡や意志疎通をきめ細かく行う努力をしている。	54 %	46 %	0 %	0 %	100 %	100.0
4	学校は、子ども一人一人を大切にし、特別に支援の必要な子どもへも対応した教育をしている。	43 %	54 %	3 %	0 %	96 %	85.0
5	学校は子どもにとって安全・安心な環境づくりに努力をしている。	43 %	54 %	3 %	0 %	96 %	93.0
6	学校は子どもたちの基礎学力を身につけさせる努力をしている。	54 %	43 %	3 %	0 %	96 %	96.0
7	子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている。	14 %	68 %	18 %	0 %	82 %	96.0
8	学校は、外国語教育に積極的に取り組んでいる。	32 %	61 %	7 %	0 %	93 %	96.0
9	学校は、あいさつのできる子どもを育てている。	14 %	61 %	25 %	0 %	75 %	74.0
10	学校は、歌声の響く学校づくりに努力をしている。	61 %	39 %	0 %	0 %	100 %	84.0
11	学校は子どもの善悪の判断力や規範意識を育てる努力をしている。	50 %	46 %	4 %	0 %	100 %	100.0
12	学校は、相手の立場や気持ちを考えられるなど、子どもの思いやりの心を育て、いじめのない仲間づくりに努めている。	46 %	54 %	0 %	0 %	100 %	100.0
13	学校は、黙動（清掃）ができる子ども育てている。	46 %	39 %	14 %	0 %	96 %	84.0
14	学校は、子どもの体力向上に努力している。	32 %	54 %	14 %	0 %	93 %	84.0
15	学校は、子どもの健康保持（病気予防・食育）について、身につける努力をしている。	50 %	46 %	4 %	0 %	93 %	100.0
16	学校は、地域について学び、地域の人の協力を得ている。	39 %	54 %	7 %	0 %	93 %	92.0
17	子どもにとって学校は楽しく、生き生きとした自分の居場所になっていると思う。	29 %	57 %	14 %	0 %	96 %	100.0
					平均	95 %	93.9

18	子どもたちは、鉛筆を正しく持って書くことができる。	18 %	57 %	21 %	4 %	75 %	78.0
19	子どもたちは、ノートを書くときに下敷きや定規を使っている。	18 %	64 %	14 %	4 %	82 %	93.0
20	子どもたちは「ぐう ペた ぴん」を意識して、正しい姿勢で椅子に座って学習することができる。	14 %	61 %	18 %	7 %	75 %	74.0
21	子どもたちは、かかとを揃えて下駄箱に靴を置くことができる。	25 %	68 %	7 %	0 %	93 %	81.0

2. 考察

昨年度と比べ、21項目中16項目において肯定的評価の数値が同等もしくは上がっている。これは、学校教育の基本となる「学校の教育目標やめざす児童像に共感でき、それに向けて学校は努力している。」の項目が100%の評価であることが関連していると考ええる。校長が4月に掲げた「学校経営グランドデザイン」の具体的な取組の内容について毎月確認をすることで、教職員が共通理解を図り、同じベクトルで教育活動を実践できていることがわかる。

特に、生活面において「あいさつ」「歌声」「清掃」の指導には力を入れており、「歌声」16ポイント、「清掃」12ポイントの向上であり、教職員全体が一丸となって努力していることが分かる。「あいさつ」については昨年度に比べて1ポイント向上しているものの、75%の達成率である。これは、指導に力を入れているが成果としてまだ不十分だと感じていることが考えられる。なお、児童用の学校評価では「あいさつ」の項目で73%の肯定的評価であり、職員と同等の数値であった。あいさつすることのよさを体感し、自発的に継続してあいさつのできる児童の育成に力を入れていきたい。

また、「特別支援」の評価については11ポイント上がっている。毎日、特別支援学級担任と連携を密にし、次の日の対応を具体的に検討することに努めていることから、意識の高さは感じ取れる。特別支援コーディネーターを中心とした組織が確立され、児童一人一人の教育的ニーズの把握し、関係職員との情報共有及び支援方法の共通理解ができている。しかし、教職員の評価96%に対し、保護者の評価は83%であるため、保護者への情報発信が必要だと感じる。「特別支援」に関する情報発信については、発信内容が制限されることもあるので、より多くの保護者に理解していただくための効果的な情報発信について検討する必要がある。

「子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている。」の項目で、14ポイント下がっていることは大きな課題である。児童の学力向上のためには、授業改善を図り、授業力を高めることが大切である。82%が肯定的な評価であるが、否定的な教職員が増えている現状である。その背景には、勤務時間内に教材研究の時間を確保することが難しくなっていることも要因の一つだと考える。全国的に教員の働き方改革は課題になっているが、本校においても限られた時間の中で授業力を高められる工夫が必要である。また、少人数による指導は学力向上に効果的であるため、次年度も積極的に行っていきたい。可能であれば、どの学年でも取り入れたいところである。授業を通じて、児童の学力はもとより人間関係形成能力や自己肯定感等も高めることができるため、今後も全教職員の共通理解のもと、現状に満足せずに研修に励んでいきたいと考える。